



### 憲法が危ない！ 3連続学習講座（その1） 「自民党の改憲案はどういう日本を目指すものか」を受講して

講師は、神戸女学院大学教授の石川康弘先生で、36名の参加者あり。

自民党改憲案ポイントは、

- ① 「天皇を日本国の元首」に「国旗は日章旗とし、国歌は君が代とする」「元号は…」。
- ② 「公的行為」「憲法尊重擁護義務」から天皇と摂政を削除。天皇中心の国づくりへ ➡ 主権在民を廃し、強い復古主義へ
- ③ 消えた不戦！
- ④ 平和的生存権が自己責任へと
- ⑤ 自衛隊は国防軍へ、また国防軍は国外だけに向けられたものでなく、内乱にも向けられる
- ⑥ 国民の権利は「公共の福祉」ではなく「公の秩序」へ
- ⑦ 公の秩序を害する活動・結社は認められない ➡ 戦前の治安維持法かと思われる
- ⑧ 家族はお互いに助け合わなければならない ➡ 国や自治体に頼るな、全て自己責任
- ⑨ 「地方自治体は、基礎地方自治体及びこれを包括する広域地方自治体とすりうことを基本へ」 ➡ 道州制へ
- ⑩ 改憲手続き緩和 ➡ 両議院のそれぞれの総議員の3分の2から過半数の賛成へ
- ⑪ 権利としての社会保障を「『真の弱者』への施し」に転換する動き、「自己責任」論の憲法化という、現憲法の根本を否定する驚きの案となっている。もはや、自民党は保守ではなく、右翼となってしまった。アメリカも日本の復古を望んでいないという。

まとめ

9条だけでなく、主権国家、主権在民、基本的人権、生存権、平和的生存権、労働権、国際社会の役割など、憲法の本質全体を「守り」「活かす」ことを政治に求めていかないといけない。

そして、一人一人が改憲をめぐる状況を語り、学び、仲間を増やしていくことが課題であると思った。

(久家登志子)

### アンケートから

石川先生のお話を聴かせて頂きますのは今日が3回目ですが、先生のお話は分かり易いだけでなく、「では、我々はどうすればよいか」まで結論付けてくださいますので、本当に素晴らしいと感服いたします。今日は本当に有難うございました。深く勉強させて頂きました。次は、できましたらマルクスのお話を聴かせて頂きたいと思っております。有難うございました。

(木村敏雄)

## 「憲法が危ない！ 3連続学習講座（その2）」に参加しよう！

5月11日（土）、13：30開場、14：00開演で、東灘区民センター第1会議室（8階）に於いて、講師に羽柴修氏（弁護士、9条の心ネットワーク事務局長）を招いて、「憲法が危ない！ 3連続学習講座（その2）」が「自民党改憲草案と秘密保全法」というテーマで開かれます。主催は九条の会、ひがしなだ、協賛は9条の心ネットワーク、芦屋「九条の会」、宝塚九条の会、です。当日は様々な催し物があるようですが、万障繰り合わせて、友人・知人を誘い合わせてご参加ください。

### 「平和を語ろう会」が東灘でもより幅広く、定着・発展めざして

「平和を語ろう会」に参加してきました。4月18日、東灘区役所西側のビュータワー1階ギャラリーで行われ、司会は、「九条の会、ひがしなだ」の世話人としても活躍中の薬剤師・成山昌子さん。

原爆パネルに囲まれた会場です。梶本修史さん（兵庫県原水協事務局長）から、原水爆と同じ原理の原子力発電がなぜ、「平和利用」の美名で持ち込まれ、宣伝され、安全神話を振りまきながら増え続けたのか、権力者側の狙いなどを聞いたあと、広島での被爆体験を「おりづるの会」の森山一男さんが、生々しく証言。

続けて、青年医療労働者から、元「従軍慰安婦」が共同生活を送る、ナムムの家（韓国）訪問を報告、さらに女性団体の会員からは沖縄米軍基地の報告もありました。

最後に、平和の歌声をみんなで響かせたのですが、こうした取り組みを、東灘で、より幅広い実行委員会方式で開催し、定着させたいものだと、あらためて痛感しました。

（田所明治）



### イラク人質の今井さんを語り部にやっとなち直り、NPOで若者支援

2004年4月、イラクボランティアの高遠菜穂子さん、戦場カメラマンの郡山総一郎さんとともに、イラクのファルージャ近郊で人質となり、帰国後は「自己責任」バッシングに苦しめられた今井紀明さん（27歳）に4月24日、大阪で会ってきました。同行したのは、今期から世話人に加わってくれた兵頭憲一（通称ケニー）さん。

悩み苦しんだ今井さんは、2年間の英国留学（本人は「逃亡」という）を経て、大分県の大学を卒業後、大阪で専門商社に勤務し、昨年からは、行く場を失った通信制高校生らを支援するNPO法人「D×P」を運営するまでに、立ち直っていました。

今後は、それをバネに、という段階ですが、戦争は過去の話ではありません。その後遺症は甚大です。

もう何でも話せます、講演も可能です、という本人の言を信じて、現代版「戦争体験を語る会」の語り部に、と考えています。また、各地の9条の会や民主的諸団体などにも、この企画を持ち込んでみようと思っています。関心と必要性のある方は、ご一報を。

（田所明治）



## パンフ「私の戦争体験」(1)、(2) の販売状況

皆様のご協力で「私の戦争体験」(1)は250部、(2)は1,100部販売できました。ありがとうございました。

(1)は50冊、(2)は280冊残っていますので、今後も販売にご協力をお願い致します。  
(合田和義)

## ホームページが新しくなりました

従来のホームページのデータを取り込んだ新しいホームページがスタートしました。

<http://higasinada9.web.fc2.com/>

上記のURLを「お気に入り」に登録してください。あるいは、Yahoo または Google の検索で「東灘9条の会」で検索してください。

(広沢正雄)

## 九条の会訪問記 (16) 青年9条の会兵庫 9条グッズで「毎日がデモ」 ショー、ライブと楽しさいっぱい

若者に、ライブとファッションは欠かせません。結成ライブは2005年4月9日、神戸のライブハウスで行われ、いろんなジャンルの表現者が「PRACE」「憲法9条」をテーマに、思いの丈を表現しました。

キッカケはその前月、3月20日に東遊園地に行われたピースフェスタ。その実行委員を中心に、「9条を守ろう」の思いで、スピード感豊かに結成したものです。会の正式名称は「PROJECT ARTICLE 9」。時に「PA9」と略され、サブが「青年9条の会兵庫」となっています。

「あなたの好きな数字は、何ですか？ 私たちは9が大好きです」で始まる「PA9アピール」の結びは、「あなたも9が好きですか？ それなら一緒に何かしませんか？」。活動のねらいも①憲法9条を、主に兵庫の青年層に広める②9条表現者（アーティスト）を増やす、とあるように、「仲間をふやす」ことに力点が置かれています。

これまでの活動で目につくのは、ライブのほか、様々な“9ファッション”で三宮の街を練り歩いて注目された「ストリートジャッ9」や「Love9クリスマス会」、仮装による1周年企画「ピースパレード」、そして9条ファッションショー。2006年6月の九条の会全国交流集会で全国デビューした9条ファッションショーは、2006年夏の原水禁広島大会・世界青年の集いで、世界へと発信。

その年11月3日、ワールド記念ホールに7500人が集った大イベント「はばたけ！9条の心」で、総勢100名による大ファッションショー、2007年9月9日には神戸文化ホールに1700人を集めた「ひろげよう！9条の心」でも、それまでに繋がり、広がった新しいPA9メンバーが中心となって、ファッションパフォーマンス、ダンス、ゴスペルで会場を沸かせました。

一方、Tシャツ、9条グッズなどを製作して他の九条の会、平和団体などの財政活動を応援。作家を20人以上も組織して、数え切れないほどのグッズを作成し、卸売して双方にメリットをもたらす方式で、「財政的にも自立している9条の会」と評価されています。

9条グッズには子供サイズもあり、これはリーダーの里山（旧姓井澤）美穂さんがママになったことも大きく影響しています。ファッションショー付きの9条結婚式を挙げ、娘の名前は九野華（このか）、服もバッグもアクセサリも「9の字だらけ」というこだわり方。

「365日、毎日がデモ」と、ほほ笑んでいます。

(田所明治)



## これからの催し物

☆☆☆☆ お芝居大好き～テアトル9～ からのお知らせです！！

神戸演劇鑑賞会の有志で作っている九条の会です。「日色ともゑお話と朗読の会」の案内です。

劇団民藝 日色ともゑ さん

### お芝居と平和を語る

日 時：5月24日（金） 18時30分～ ※開場18時00分

場 所：神戸市勤労会館（三宮） 2階多目的ホール

参加費：1,000円



#### 日色ともゑ さん プロフィール

1961年、劇団民藝の民藝俳優教室に第1期生として入団。この時以来宇野重吉さんを師と仰ぐ。神戸初舞台は、1964年1965年と続いた『夜明け前』第一部、二部に出演。以後、数多くの作品で神戸の舞台を踏む。舞台以外でも、1967年のNHK連続ドラマ「旅路」に出演。長崎、広島の前爆手記「この子たちの夏」「夏の雲は忘れない」の朗読劇で、渡辺美佐子さん、川口敦子さん、寺田路恵さんたちと全国を巡演。全国各地9条の会で「詩の朗読」と「平和や9条を守るお話」の講演をしている。

☆☆☆☆ 芦屋「九条の会」8周年記念のつどい

## 未来に残そう平和な地球

日 時：6月1日（土） 午後2～4時（開場1:30）

講師 秋山 豊寛さん（日本人初の宇宙飛行士）

会場 上宮川文化センター ホール

参加協力費 500円（高校生以下無料）

私達を取り巻く状況は急激な変化を重ね、しかも時代の潮流は決して良い方向に向かおうとはしていません。今こそ、戦争をしないと決めた憲法9条を護り広げるため、私達に何ができるのか、ご一緒に考えてみませんか？



☆☆☆☆ メディアを考える市民の集い

番組制作者が語る **テレビ報道はなぜおかしくなったか**

TBS「報道特集キャスター」 金平茂紀さんを迎えて

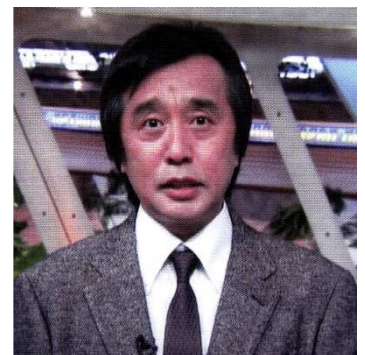
とき：6月2日（日） 13:00開場 13:30開演

ところ：神戸市勤労会館7Fホール

参加費：一般1,000円、学生500円

主催：NHK問題を考える会（兵庫）

3.11原発事故以後、「テレビ報道はおかしい」という声をたくさん聞きます。伝えるべきことを伝えていないのではないか、脱原発の運動を伝えていないテレビは「公共性を担うジャーナリズム」としての資格があるのか、という批判もあります。テレビの絶大な影響力を考えると、テレビはどう変わればいいのかを番組製作



# 河東けい一人芝居 「母」

日時：7月12日（金）  
14:00 開演(13:30 開場)  
18:30 開演(18:00 開場)

場所：うはらホール

JR 住吉駅：東へ3分

主催：神戸東灘文化協会

共催：神戸芝居カーニバル

実行委員会

チケット

会員前売：2,000 円

一般前売：2,500 円

当日：3,000 円

学生・障がい者：1,500 円

お申込み

090-7364-9171（三村）

090-1914-4907（中島）



## 三浦綾子原作 <母> ひとり芝居 出演

この原作“母”は1992年に出版された。作者三浦綾子さんは、そのあとがきにこう書いている。「小林多喜二の母を書いてほしいと三浦から頼まれたのは10年以上も前になるだろうか。正直な話、私は困惑を覚えた。私は小林多喜二をよく知らない。共産主義もまことにうとい。その私に、どうして小林多喜二の母が書けるだろうか。事実私は大いに戸惑った。が、取材が始まり、調べるに従って、多喜二の家庭の明るさにいたく心を捉えられた。その後紆余曲折はあったが『いかに国家権力といえども、裁判にかけないで人を殺してよいのか。これに白黒を付けてくださる方がいないのか』という三浦の問題提起を、何とか小説に盛り込み、曲がりなりにも書き上げた」（文中抜粋）と。この“母”に感動し、同じように感動した人々に勧められて直ぐに劇化、1993年6月に、神戸市立博物館で初演の幕を開けた。それから20年、どこでも感動の声が寄せられたが、一番先に喜んで下さったのは三浦綾子さんであった。

今年が多喜二の死から80年目、日本は又、危ない方向に動き出そうとしている。が、この“母”のわが子への愛と信頼は、どんな世の中になろうとも不変である。その愛が力強く、大きな平和の力になればと、心より願っている。

河東けい